

四国へんろの仏たち



仏教に「じょうくぼだい上求菩提、げけしめじょう下化衆生」ということばがある。道端にたたずんで旅人の安全を見守る下化衆生の野仏と、ほとけの道を求めて上求菩提のへんろたち。上求と下化の二つが備わって「ほとけ」といわれる。

圓福寺報

圓福寺報 第四十四号
 平成十七年七月十五日発行
 発行者 臨濟宗妙心寺派 圓福寺
 千葉市稲毛区穴川町三七五 TEL(二五二)九一八一
<http://www.bnet.co.jp/enpukuji/>
 E-mail: enpukuji@come.bnet.co.jp

目次

第八回四国あるき遍路の旅	二班 塩月 高泰さん 一班 小貫 晃さん	2
第九回四国あるき遍路のご案内		10
圓福寺四人目の仏弟子誕生		11
お寺の情報公開ページ その十三		12
「お寺の数」		14
圓福寺市原別院(仮称)構想		15
市原いも畑・植林をしよう		16
幼稚園園舎新築中		17
地蔵盆中止のお知らせ		18
お寺と和尚の日録抄		19
土曜会「俳句会」		20
第21回花園会ゴルフ大会報告		20
平成十六年度花園会会計報告		20
編集後記		20

二十ページ!
夏の増大号



第八回 四国 あるき 遍路の旅

1班：平成17年3月1日（火）～3日（木）

2班：3月5日（土）～7日（月）

五十一番石手寺から五十九番国分寺まで

第八回あるき遍路の旅は、参加希望者が多く、2班に分けての遍路旅となりました。今回のメインに据えていた「横峰寺」は、昨年の台風被害で、遍路道は通行不能となり、ほとんどが平坦な道と甘く見ていたのですが…。

◆◆◆第一班は、講談社刊行の「週間四国遍路の旅」

四国あるき遍路の旅

みつわ台 塩月 高泰さん

（一班に参加）

正月圓福寺新年懇親会の席で、稲田さん、菅野さんに誘われ、焼酎の勢いで参加することになりました。今年は酉年六回目を迎え、これまで多くの人々に出会い、その人達に支えられ、今だ非常勤ながら元気に勤める事のできる体を与えてくれた両親、出会った皆様に感謝し、又、昨年よりお寺で月一回写経を始め、写経を納める事もあり参加しました。

三月一日六時三十分、羽田第二ターミナル出発ロビー一番時計の下集合、総員十名。天気晴朗、しまなみ海道を眼下に見ながら無事松山空港着、リムジンにて松山駅へ。

一日目は五十一番札所石手寺、五十二番太山寺、五十三番円明寺

の取材を受け、その記事が第十三号に掲載されました。



石手寺の三重の塔

の三ヶ寺、案内役の和尚さんが市内電車一日乗車券を皆に配布し、遍路の始まりです。道後温泉より石手川に沿って石手寺へ。初めての事なので、石手寺で納経帳とさんや袋を買い、首に「同行二人」のさんや袋をかけると、遍路している姿に四国の人々も挨拶してくれました。和尚さんの木魚に合せた皆で般若心経を唱え、心が洗われる思いです。石手寺の裏山を道後温泉へ。道後で昼食を。伊予に来ては讃岐うどんと云うのかなと思いつつながら本当に美味

◆◆◆

▲太山寺仁王門前に坐る塩月さん。



しい地元
のうどん
を頂き、
昼食後、
一草庵を
経て五十

二番の太山寺へ。

石手寺から十・五料、本当に初
めての道は遠く感じました。川沿
いに道標がありました。私も足
は短い、歩くのは人に負けない
つもりでしたが、和尚さんの早い
こと。太山寺から遍路道のミカン
山を通り五十三番円明寺へ。一日
目のお寺のお参りを終って、伊予
和気駅へ。

JR予讃線で松山駅に着いた時
から寒気がして、体が熱っぽい。
朝の一日乗車券を使って皆で道後
の坊ちゃんの湯へ。今日一日で約
十五料以上は歩いている足を湯場
でマッサージする。夕食は昨年秋

の時に皆で行った店らしい。風邪
の様で、酒がすすまない。ホテル
では武さんと同室で、寝ていても
毛布を掛けてくれたり、本当に親
切にしてもらいました。

二日目は五十四番延命寺から五
十八番仙遊寺の五寺のお参りであ
ります。JR松山駅からJR大西
駅へ。体調が悪く、出る時重ね着
をし、歩いていると汗をかき、上
着を脱ぐとだんだん遅れて行く。
先導の方が疲れない事を思いまし



▲大將軍神社で一休み

た。五十
五番南光
坊から五
十六番泰
山寺、五
十七番宗
福寺迄、
先回り組
のタク
シーに

▲木々のトンネルを通して、延命寺の大師堂。



リュックを積んでもらい、楽に歩
くことができました。一日目の
三ヶ寺、二日目の宗福寺までの道
は市街地で舗装され、下が堅く、
結構疲れる事が解りました。土の
方が歩き良い様に思われます。二
日目最後の五十八番仙遊寺は作礼
山の山頂に有り、石段の登りが一
番苦しいお寺でした。お寺に着い
た時は天候も悪くなり、下界は何
も見えず。パンフレットによれ
ば、良い天候だったら遠く石鎚連
峰、瀬戸内に浮かぶ島々、夜は今



治の夜
景が素
晴らし
いと書
いてあ
りま

す。夜は仙遊寺の宿坊に。風呂は天然温泉で食事は精進料理でしたが、体調が思わしくなく、立派な料理もそこそこに早めに床につかせてもらいました。

三日目は朝から冷たい雨です。五時半に起床し、朝のおつとめ、住職の説教を聞き、粥の朝食。八時十分に五十九番国分寺に向かつて雨の中を出発しました。山道を下りる時、和尚さんの腰鈴の音色の良い事で雨も苦にせず



に歩くことが出来ました。三月の初旬は四国路はまだ寒い。手袋を持っていて良かったで

す。和尚さんは素足に草鞋。ほとほと感心しました。国分寺をお参りした後、雨も多少強くなり、桜井駅で皆で協議し、私の体調を考えてくれたのか、湯の浦温泉に行く事になり、六十一番香園寺は次回となりました。寒い雨の中を歩いた後の温泉は最高の気分になり、昼食は思い思いのものを頂き、一休みして桜井から松山駅へ。和尚さんは二班待つべく松山で別れ、私達はリムジンで空港へ。

自宅に帰って体温を計ると三十八度七分の高熱。でも皆様に心配させながらも三日間歩いて巡った四国あるき遍路の旅、初日に道後

で風邪薬を買った時体温を計っていたら、その時から脱落してほろ苦い四国路になっていたのを思うと、

皆に助けられて又、行く気分になつていきます。常にジョギングに使う靴なのに、帰って足を見ると、人指し爪が両方とも血豆となって痛くはないのに、とれてしまいました。いかに日頃歩いてないか痛感しています。

次回秋は六十二番横峰寺は山道で標高七百五十米とあります。それなりに体調を整えたいと思います。今回初めてで和尚さんを始め、皆様方にはいろいろとお氣遣いお世話になり有難うございました。次回もよろしくお願ひ致します。



伊予桜井駅でつかの間のくつろぎ。

四国あるき遍路の旅

幸町 小貫 晃さん
(二班に参加)

三月五日、愛媛の天気予報は、季節はずれの「雪」。しかし、松山空港に降り立つと予想ははずれて「快晴」。路面電車で揺られて道後温泉に着くと、雲水姿の住職がお出迎え。

市街地を歩いて、今回最初の札所「五十一番石手寺」に着くと、参道の両側に小さな商店が並んでおり、飴・ハケ・お経本などを売っている。商店街(?)を抜けて、山門のところまで土地の人のお接待に「草餅」をいただく。



松山市
内をほぼ
真西に向
かって横
切り、三
津の近

道後温泉本館の前を歩く。



く「里味」という食堂で昼食にありつく。店を出て振り返ると、真っ黒い雲が迫ってきている。ちらほらと雪も落ちて来た。いよいよ天気予報どおりに雪模様かと、女性軍はコンビニにカップを買いに走った。しかし、一行は太山寺に近づくものの黒雲は近づいて来ず、いつ

のまにか姿を消し、もとの快晴となっていた。

ようやく「五十二番太山寺」の入り口に辿り着く。参道の先に仁王門が見えたが、そこから山門まで四百五十mもあり、広大な敷地を体感させられた。

参道の左側の土手には、ところどころに句碑が建てられており、

「道ゆづる 人を拝みて 秋遍路」

村上 杏史

「蒟蒻に つつじの名あり 太山寺」

正岡 子規

などの句が印象に残った。

太山寺を後にし、東に向かうと

五十三番円明寺である。大

師堂の左奥

に、マリア像

とおぼしき石

像あり。隠れ

キリシタンと



太山寺仁王門前の石段

▼大正山門前の石段に集合して・・・。



いう説あり。

お寺を後にして、伊予和氣駅に着く。まるで、大正ロマン風の小さく、しゃれた駅舎。全員で記念写真をパチリ。

松山に戻り、今日の宿松山東急インに荷物を置くなり、道後温泉本館に行く。「いい湯だなあ。」

夕食はすっかりおなじみになった一番町の「八久茂」。例の大女将のおでましとなった。

第一班のときに約束したという、「天然のカキ」をごちそうになる。

このカキは大女将自らが海にいつて採ってきたものだそうだ。養殖のカキや、千葉の夏ガキと違い、また、大女将の態度と違って、大きくはない。せいぜい小指ほどの大きさである。しかし、味が濃く、甘みも濃厚、そしてプリプリしている。殻から身をとるのはたいへんだろうというところ、「指先の細かい作業だから、私はボケないの！」と威勢のいいことばが返ってきた。どうぞ、お元気で・・・。

三月六日、二日目。六時半から朝食。柔道連盟の行事があったようで、食堂は大柄な人たちで埋まっていた。

路面電車「大街道」駅で、電車を待っているときの気温は三℃。かなり冷えているが、天候は良好。

松山駅から乗った予讃線は、ほぼ貸切状態。それもそのはず、日曜の早朝である。無人の大西駅で降

りて、そこから歩きである。道からはずれたところで、桜を見る。五十四番延命寺。朱色の仁王さんが鎮座する仁王門をくぐると、左に鐘楼、山門をくぐると右に鐘楼と、鐘楼が二つもある。参道の左側に売店があり、売店と並んで納経所もある。

ここで、木原さんと合流した。昨晚、「八久茂」で合流した齋藤さんとで、今回の参加者全員がそろった。これ



▼延命寺を田舎して、今治に向かう。

からわれわれ歩き、瀬戸内海の海沿いへと足を進める。市外を通って次のお寺、

五十五番南光坊に着く。別宮大山祇神社の隣である。

巨大な門の両側に仏様が祀ってある。門をくぐって振り返ると、こちらにも仏様が祀ってある。二王と二王で「四王門」か？

四王門？をくぐった右側に大きな大師堂。正面に本堂、本堂に至るまでの右側に金比羅堂、薬師堂と続く伽藍である。

「一竹」といううどん屋さんで腹ごしらえを済ませ、三十分ほど歩くと五十六番泰山寺。石段を登ると正面が



▲南光坊の巨大な大師堂。

と正面が庫裏、その右に納経所・宿坊。この二つの建物が新築。ピカピカ。左側の本堂と

右手前の大師堂

は、古いお堂。この新旧の

コントラストを見

て、境内の大師像

たちは何を思うか・・・。

参道下に戻り、差し出されたお

接待の甘酒につられて、茶店を冷やかす。ニッキ水を買っている。高

知の種間寺の茶店でニッキ水を飲んで気持ち悪くなったことを思い

出し、ニッキ水には手を出さないことにした。

田んぼのあぜ道を通り、市街を抜け、川を渡って山裾に着く。目の

前の山を越えて五十七番崇福寺を目指す。その山の急斜面にへばり



▲開放感あふれる泰山寺大師堂。

つくように、急な石段が山頂の向かって伸びている。「伊加奈志神社」の参道である。石段を数えながら登ると、百三十八段もあった。途中で道を尋ねた人が、「きついでよ。」といったのもうなづける。社殿の前で小休止。

社殿の裏手から、あまり人も通っていない落ち葉に埋もれた道を歩く。久しぶりに山中の遍路道といった感である。尾根伝いに少しいくと、八幡神社に出る。境内からの眺望がすばらしい。はるか今治市街を望み、その先にしまなみ海道の島を結ぶ高速道路の橋がうねっている。



▲しまなみ海道の絶景に息を呑む。

▲ 八幡井水庵。



八幡神社の石段を下りると、左側に栄福寺が静かに佇んでいた。大師堂と本堂の背後に竹林

が迫り、風に揺れている。まるで、お堂も黄緑の新緑に染まり揺れているようである。

この札所で初めてお遍路の集団に会う。ワゴン車2台、境内まで乗り込んできて、読経をして、台風のようにさっさと通り過ぎてしまう。こんな風よりは、竹林に渡る風の方がいいに決まっている。また、そんな風を感じる遍路の方がいいに決まっている。

五十八番仙遊寺までのあるき遍

路は、仁王門をくぐって急な石段を行く。途中、お大師さんも飲んだという霊水が湧いている。わざわざポリタンクを持って汲みに来る人もいる。

急な石段を登りきると、大師像が迎える。大師堂の左の階段を上がると、はるか山並みが見える。四国山地の笹ヶ峰、瓶ヶ森、そして石鎚山などがそびえている。中央の三角錐の山は、まるで北アルプスの剣岳のようだ。雪を冠して威風

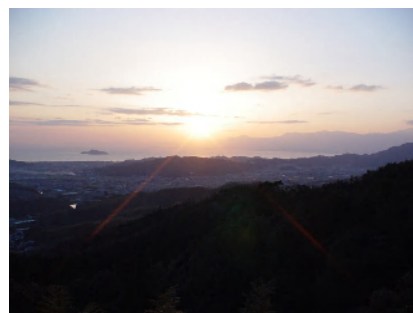


▲ 犬塚池の下を仙遊寺に向かう。

堂々としている。

石段を下りて、本堂の右側の宿坊に入る。お風呂は、地下六百米から汲

み上げたという天然鉱泉である。風呂上りに二階ホールから見た夜景がすばらしい。夕食は、精進料理。みかんの皮のてんぷらをはじめ食べた。



▲ 山遊井で「来光」を拝む。

宿坊の朝は早い。五時四十五分からのお勤めと、三十分のお話を聞いて、小豆粥の朝食。八時前に出発。

川辺を歩きながら、北の山に仙遊寺の宿坊を仰ぎ見る。川辺の桜はまだ開花していない。

五十九番国分寺の駐車場に托鉢している僧、さらに石段下に一人の物乞いが坐っていた。今日は日差しが強く暖かい。乞食僧も物乞いも、天気が悪いと見ることはな

いが、暖かきにつられて出てきたか。

石段を登ると正面に本堂、右に大師堂。大師堂の中をのぞくとお大師さんは見えず。八十八ヶ所札所のお大師さんは、恥ずかしがりやが多いようで、あまり姿を見ることはなく、大いに残念。

国分寺から出て、線路沿いの田んぼ道を歩く。湯ノ浦温泉の道の駅で小休止。国道一九六号線を、瀬戸内海に沿って歩く。

少し峠のようなところを越えると、正面に雪をいただく石鎚山がそびえている。左側に河原津海岸



▲川岸の遍路道。

の海岸線が伸びている。絶景である。また、この海岸はカブトガニの生息地だという。河原津の町

▲四圍山は雪。麓は菜の花。峠の遍路道。



に入り、同行の木原さんのお姉さん宅で、昼食のお接待をいただく。全員で般若心経をよんで、お

仏壇にお参りする。地元のサヨリがのったちらし寿司といなり寿司、サヨリのお吸い物、みかんやジュース、ビールまでいただいた。

十分な腹ごしらえと休息をとらせていただき、再び歩き遍路となる。右に石鎚山、左に笹が森を見ながら、正面の山の麓を目指す。途中通り過ぎた壬生川は、住職のお父さんが出家をしたところだという。予定では、六十一番香園寺だっ

たが、時間の関係で伊予小松駅に向かった。ほぼまっすぐの道である。天気は快晴であったが、風が強い。平坦だが、長い道のりである。伊予小松駅に着いて、荷物を置いて、すぐそばの六十二番宝寿寺をお参りしてくる。街中のこじんまりしたお寺である。一同読経礼拝し、道中の無事を感謝した。

駅に戻ると四時二十分であった。仙遊寺を八時前に出発し、八時間も歩いてきたことになる。よく歩いたものである。本当の歩き遍路なら、これが毎日と思うとその大変さは想像に難くない。

伊予小松駅から松山駅に戻り、松山空港から機上の人となり、羽田に着いたのは午後八時半であった。



▲同行二人。だいぶ山が近づいてきた。



横峰寺

第九回

四国あるき遍路の旅



第九回のあるき遍路は、前回台風の影響で断念した、伊予の難所六十番横峰寺をメインに、六十五番三角寺まで歩きたいと予定して

あります。無事、三角寺までお参りすると、伊予の道場を打ち上げることになります。

◆募集人数 二十名まで

◆旅程 (あくまで予定。)

十一月二十五日(金)

飛行機または新幹線で、伊予西条へ。六十二番・六十三番・六十四番まで参拝。西条市周辺にて宿泊。

十一月二十六日(土)

朝から歩きで六十番を目指す。六十番参拝後、遍路ころがしを下って、六十一番香園寺参拝。子安大師で有名なお寺。同寺宿坊泊。

十一月二十七日(日)

香園寺から伊予三島まで移動。伊予三島から歩きで六十五番三角寺へ。参拝後、帰路につく。

◆参加費

五〜六万円ぐらいを予定しています。

◆その他

毎回、費用を安くす

るために、旅行会社を通さずにお寺で直接、旅行の手配をしております。もう九回にもなりますので、手配も慣れては参りましたが、毎回いろいろ苦労しております。つきましては、参加ご希望の方は、早めではなく、すぐにお申込下さい。募集人数に達し次第、旅行の手配を始めますので、それ以後のお申込は受付できないこともありますので、あらかじめご了承ください。



三角寺

圓福寺四人目の仏弟子誕生

四月八日、お釈迦さまの誕生日、「花まつり」の日に、一人の青年が仏弟子となるべく、「剃髮式」を行いました。箸方達雄君です。覚えていらっしゃる方も、もしかしたらいらっしゃるかもしれません。

圓福寺の坐禅会に参加していて、一時チベットに行き、チベットからの手紙を寺報で紹介したことがあります。その箸方君です。

日本に戻ってきて、出家をしたことのでしたことが、臨済宗の場合、専門道場での修行がで



きなければ出家は認められず、残念でしたが、お断りしました。その後、し



ばらく音沙汰もなかったのですが、その間も出家したいという気持ちでいたようです。数ヶ月のちに、またお寺に来て、出

家したいというのです。

その発心の確かさに、出家を認めることにし、修行は本山の「安居会」の履修でということになりました。これは、特別な事情がある場合の修行制度で、本山で毎年十日間の研修を五回することで、専門道場一年の修行と認めるものです。十日間の研修とはいえ、専門道場にならった厳しいもので、落伍する者、途中で断念する者もいるようです。

その修行に先立ち、圓福寺での小僧教育が始まっており、毎朝出勤前に、朝の勤行、食事作法の修

得など、衣食住にわたって修行僧の基礎を身につけております。得度式は、七月末に本山で執り行いますが、それに先立ち、四月八日に「剃髮式」を行ったのでした。

圓福寺との縁で出家した四人目となります。うち、一人は途中で挫折してしまいましたが、一人は専門道場にて八年目の修行を続けております。箸方君も、得度式にて僧名「宗達」となり、これから厳しい修行を続けて参ります。皆様のご法愛を、どうぞよろしくお願います。申し上げます。



お寺の情報公開ページ その十三
お寺の数の数

久しぶりの情報公開ページとなりました。

今回は、全国のお寺の数を調べてみました。全国と比較して、千葉県の現状も見えてきます。

左の表は、都道府県別の人口・世帯数・寺院数、そして寺院数の中で臨済

宗・黄檗宗の寺院の割合です。世帯数を算出したのは、ほとんどの仏教寺院が、いまだに「檀家」といって、家単位の考えをしているからです。

この表によれば、臨済宗系のお寺が多い地域は、山梨・岐阜・静岡・京都・愛媛・大分です。割合から見ると、臨済宗系がある程度根付いている地域と言えますが、世帯数を寺院数で割った、一寺院あたりの檀家数を見ても、これらの地域は数値が低く、

檀家数の少ないお寺が多いことが推測できます。檀家数が少ないことは、住職がいらない無住寺院が多いともいえません。

千葉県の場合は、七十六を数える臨済宗系寺院の数ですが、そのうち住職のいない無住寺院が三十八もあり、寺院の実数は三十五ヶ寺ということになります。一寺院あたりの檀家数が多い千葉でありながら、無住寺院の数が多いのですから、檀家数の少ない地域の無住寺院は自ずから多いと考えられます。

一寺院あたりの檀家数が多いとはどういうことでしょうか。経済的に裕福なお寺が多いとも言える反面、絶対的に寺院数が少なく、仏教の教えを広めることが難しい地域と言えるでしょう。特に、首都圏とその近郊地域にその傾向が多いことを見ると、人口の移動に仏教寺院がついていないとも言えます。

臨済宗系寺院について考えてみると、寺院数のうち臨済宗寺院の割合が低く、一寺院あたりの檀家数が多い地域では、明らかに臨済宗系寺院が少ない

く、については臨済宗の教え、極端にいうと臨済宗という名前すら認識が薄い地域といえます。仮に、臨済宗系の割合が5%未満で、檀家数が千以上の地域を拾ってみると、北海道・青森・茨城・千葉・大阪・鹿児島となります。このうち、人口流入の多い地域は、茨城・千葉・大阪になります。つまり、この三地域は、臨済宗の教えが広がっておらず、宗勢上臨済宗系寺院を増やしていかなければならない地域といえます。

このことは、千葉市周辺の船橋・習志野・八千代・市原・袖ヶ浦などの地域に、臨済宗寺院が皆無ということからも明白です。これらの地域に、どの地方の出身者が多いのかの調査を待たなければいけません。臨済宗寺院の多い地域の出身者が多ければ、その受け皿となるお寺がなければ、自ずから臨済宗の信者数は減少するに違いありません。

ここまですると、宗務機関の早急な対策が臨まれることとなりますので、今回の情報公開はこころで終わりにしたほうがよさそうです。

圓福寺市原別院 (仮称) 構想スタート

市原別院 (仮称) 構想の趣旨

かねてから、千葉市周辺に臨済宗のお寺がないことが残念で仕方ありませんでした。それでも、わざわざ臨済宗のお寺を探されて、遠くから圓福寺にお見え下さる方もたくさんおいでになり、心苦しく思いつつ、うれしくもありました。

わざわざ臨済宗とって訪ねてくださるのは、生家のお寺が臨済宗という方がほとんどです。これは、先祖代々という意識のもと、生家と同じ宗派、父母や祖父母と同じ宗派でというお気持ち

と、お生まれの地域の臨済宗のお寺さんの絶え間ない布教伝道の賜物と感じております。それを、千葉には臨済宗が少ないからということでは絶やしてはいけないと、千葉の圓福寺に入寺して以来、常に思って参りました。それは、花園法皇様の「報恩謝徳の思い、興隆仏法の志し」というご遺志につながるものと確信しております。

ところが、圓福寺は、東金に唯一あった護良親王ゆかりの臨済宗のお寺を、戦後、廢寺にせざるを得ないこともありました。

このようなことから、いつかは臨済宗のない地域に、小さくとも一字を建てて、臨済宗のお寺の礎を築くことが、「報恩謝徳、興隆仏法」のみ教えを体现することではないかと思っております。

そんな折、市原市に格好の場所が見つかり、役員さんとも現地を精査の上、責任役員会の決議を経て市原別院(仮称)用地として入手することに致しました。用地の概要は次のとおりです。

所在地 市原市武士八六八一一他
(小湊鉄道上総三又駅東約3km)

面積 約九千五百坪
地目 宅地(現況は原野)

今後、圓福寺花園会の活動の場として、また穴川花園幼稚園の保育の場として有効に活用しながら、市原市唯一の臨済宗寺院建立に向け、牛歩を進めて参りたいと存じます。なにとぞよろしくお願ひ申し上げます。

宗教法人 圓福寺

代表役員 宮田宗格

責任役員 一同

◆◆幼稚園のあいも畑づくり

五月二十九日、二百名を越すも植えの親子ボランティアが集まり、さつまいもの苗を植えつけました。秋の収穫が楽しみです。



これは、草取りの活動もしていきます予定です。当日は、

子どもたちと原野にクローバーの種も蒔いてきました。左の写真は、子どもたちと一緒にクローバーの種をまいている住職、いえ園長です。



◆◆土曜会「植林をしよう！」

六月十九日には、土曜会の企画で植林をしました。

日ごろの運動不足解消、ストレス解消。心地よい汗をかいたあと、広い空と広い大地に囲まれて食べた弁当の味は格別でした。

地球温暖化、CO2排出規制が言われている中、わずかな植林ですが、環境によい事をした充実感もありました。

二〇〇〇本弱の杉と檜を植えました。



緑の中年隊？

穴川花園幼稚園五十周年記念事業

新園舎地鎮祭

寺報四十二号でお知らせいたしましたように、四月から幼稚園園舎新築工事が始まりました。

四月からの園舎解体に先立ち、引越しの終わった三月二十九日には、「園舎お別れ会」と称して、約八百名ほどの子どもたちが集まって、落書き大会をしました。

とかく新築の建物ばかりに目がいきますが、いままでお世話になった園舎にきちんとお別れができたことは、新しい園舎に対して大切に使うおうという

園舎お別れ会
——大落書き大会——



消しかった幼稚園、思い出の園舎、思い出さなければならぬ思い出、その思い出も30才の誕生日を迎え、園舎が新しく生まれかわることを記念して、そこで、園舎とのお別れ会をしたいと思います。幼稚園での思い出やメッセージを書き添えてください。お別れをしましょう。

すてきな記念品のプレゼントもあります。お別れを願って久しぶりに園舎に来てみて下さい。なつかしいともだちや先生に会えるチャンスです。

3月29日午前10時、幼稚園に集合
持ち物：落書き道具（ペン・スプレー・絵の具）
参加する人は、幼稚園までお知らせ下さい。
（できる限りお電話かメールで申し込んで下さい）
このお別れ会にないお家にお知らせ下さい。

〒420-0801 穴川花園幼稚園
電話 042-284-0904
FAX 042-284-0904
E-mail: kangawa-hanazono@kwanon.or.jp
http://www.kwanon.or.jp/hanazono/

気持ちを持てたのではないかと思います。私たちの一生も、人生の最後の死というものを見据えることで、今の生を有意義に過ごすという気持ちになることと通じるものがありました。

いざ解体が始まると、鉄筋コンクリート造の建物の瓦礫の量に驚かされました。再生不能の瓦礫は、環境にやさしくないものとなりました。子どもたちをやさしく包み込んでいた建物が、環境を壊す代物になる矛盾を感じながら、これからは壊すことや処分するときのことも念頭に置いて、物を作ったり買ったりしな

ければいけないと考えさせられました。県下でも先駆けの鉄筋コンクリートの園舎が、姿を消しました。



すっかり更地になった園舎跡地に、園児の代表を招き、地鎮祭をしました。子どもたちが、お塩やお米をまいて、工事の安全と素敵な園舎が早くできることを祈っています。お塩やお米は、園舎を建てるためにどこかに姿を消したツバメや虫たち、草花に対して、私たちの一番大切なものをお返しするという意味があります。

七月半ば過ぎから鉄骨の柱が建てられ、八月はじめには再び子どもたちを招いて上棟式を行います。



はないでしょうか。餅がまかれたり、お菓子が空から降ってきたり、どなたもが子どもの頃に経験した上棟式を現代の子どもたちにも伝えていきたいと思えます。貴重な経験になることでしょう。

上棟式が終わると、外壁工事は始まり、新園舎の概要が姿を現してきます。新園舎は、旧園舎と同じ場所に、少しだけ大きくなった総二階建てとなります。外観は、お寺の幼稚園にふさわしく切

す。マンション住まいや建売の住宅に住んでいる子どもたちにとって、初めての

妻の屋根で、落ち着いた雰囲気に包まれています。二階には、可動式舞台を備えた、広さ百五十㎡余りのホールが設けられ、おさらい会や誕生会などの行事に対応できます。また、子どもたちにとって必要かどうか賛否はありますが、全館冷暖房完備と設備も充実しております。

十二月末の完成を目指しており、それまでの間、檀信徒の皆様にもご迷惑やご不便をおかけしますが、仏教保育を担う施設の完成までしばらくの間お許しのほど、お願い申し上げます。

学校法人 千歳幼稚園 六川松岡崎園

新園舎完成予想図

お待ちをいたしました。

この新園舎の完成が、よりよい環境で、よりよい保育を実現する一歩となります。お寺の子どもたちにとって、よりよい環境で保育を受けることは、心身の健全な成長に繋がります。千歳幼稚園は、地域の教育機関として、地域の教育に貢献していきます。詳細はホームページ上、「新園舎完成予想図」のコーナーでご覧いただけます。

12月完成予定

- ・敷地と建坪 ... 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十
- ・保育室 ... 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十
- ・遊戯室 ... 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十
- ・子育て支援室 ... 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十
- ・職員室 ... 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十
- ・事務室 ... 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十

TEL 043 (251) 3514
FAX 043 (264) 9504
E-Mail: shogun@shogun-kyoiku.ac.jp

こどもたちのお盆

地蔵盆のご案内



山岡鉄舟母堂のお地藏さんにちなんで、毎年開催されている「地藏盆」も、昨年で十四回を数えました。毎年、焼きそば・やきとり・生ビール・ポン菓子などのボランティアも増え、充実して参りました。

今年は、ご承知のように、幼稚園工事中につき、幼稚園のみたままつりも東千葉の仮園舎で開催されます。つきましては、今年のお地藏盆は中止とさせていただきます。

また来年は、さらにパワーアップして、楽しい地藏盆を開催したいと思えます。

平成十七年上期お寺と和尚の記録抄

1月1日	新春ご祈祷	22日	土曜会・彼岸法話会
1日～3日	修正会	23日	取手長禅寺彼岸会法要出頭
14日	月例役員会	26日～28日	冬の寺子屋 in 苗場
19日	社会保険センター、写経講座出向	29日	ご詠歌練習日
21日	幼稚園会計監査	4月1日～2日	幼稚園、旧園舎「お別れ会」
23日	花園会新年会	3日	静岡永安寺、本堂落慶・晋山式
24日	妙心寺派東京教区第七部部内会	6日	社会保険センター、写経講座出向
25日	ご詠歌練習日	8日	宗達禅士剃髪式、月例役員会
26日～27日	臨済宗青年僧の会定例会 於清水	9日	幼稚園、入園式
29日	幼稚園、バザー	18日	取手長禅寺観音まつり出頭
2月2日	社会保険センター、写経講座出向	20日	東京白山是照院、一周忌齋会
3日	幼稚園、節分	26日	社会保険センター、写経講座出向
4日	月例役員会	27日	ご詠歌練習日
6日	写経会	5月1日	幼稚園、「花まつり」
8日	千葉市幼稚園協会稲毛ブロック会	2日	妙心寺派東京教区役員会、於恵比寿松泉寺
19日	土曜会「春の句会」	6日	月例役員会
22日	轟町中学校職場体験 六名	9日～10日	臨済宗青年僧の会定例会、於多治見
3月1日～7日	ご詠歌練習日	11日	幼稚園会計監査
9日～10日	第八回四国あるき遍路の旅（一班・二班）	14日～16日	全国花園会青壮年部研修、於福井
11日	平林寺専門道場、齋会	18日	第二十一回花園会ゴルフ大会
13日	月例役員会	19日	幼稚園、新園舎地鎮祭
16日	彼岸会法要	21日	土曜会「夏の句会」
20日	幼稚園、卒園式	24日	妙心寺派東京教区第七部部内会
	根岸円光寺彼岸会法話	29日	幼稚園、いも植えボランティア二百名参加

▽毎週木曜日午後六時〜 木曜坐禅会
坐禅三十分二回、終わって茶話。無料。初心者歓迎。

▽毎月第三土曜日午後六時〜 土曜会
お寺とあなたを結ぶ自由空間。会費二千元。

▽毎月最終火曜日午後四時〜 ご詠歌練習
▽毎月第一日曜日午後一時半〜三時半 写経会
「般若心経」の写経。見やすい大ききの字体です。
正座できない人のために、イスとテーブルも用意。
一期五回(事前申込制)。会費三千元。

31日	ご詠歌練習日
6月1日	社会保険センター、写経講座出向
5日	写経会
10日	月例役員会
15日	社会保険センター、写経講座出向
19日	土曜会、「植林をしよう」
26日	ハッピーちば、写経講座出向
29日	ご詠歌練習日
7月1日	社会保険センター、写経講座出向
3日	月例役員会
12日〜16日	写経会
23日〜24日	七月盆棚経
28日	第十四回圓福寺寺子屋「禅童会」
28日〜29日	宗達禅士、合同得度式 於本山 宗達禅士、学徒研修会 於本山

土曜会

俳句会 (2/19・5/21)

二月十九日(季題「梅」)

道元や梅花の中の大宇宙 高橋敏勝

何かしら勇氣くれそう梅一輪 香坂千香子

日脚伸びわらべ地蔵に笑みほのか 齋藤加代子

五月二十一日(季題「短夜」)

薰風の抜けて棚田の水光る 高橋敏勝

短夜や短き時を刻む音 齋藤加代子

柿若葉朝の光を透かしけり 笹倉邦康

土曜会俳句会では、季題を入れた一句と自由な二句の合計三句を詠みます。提出された句を作者無記名で書き出し、その中から各自が気に入った句を五句選びます。選ばれた数が多いものをここに紹介しています。投句も大歓迎です。ハガキでもメールでも、どうぞお寄せ下さい。

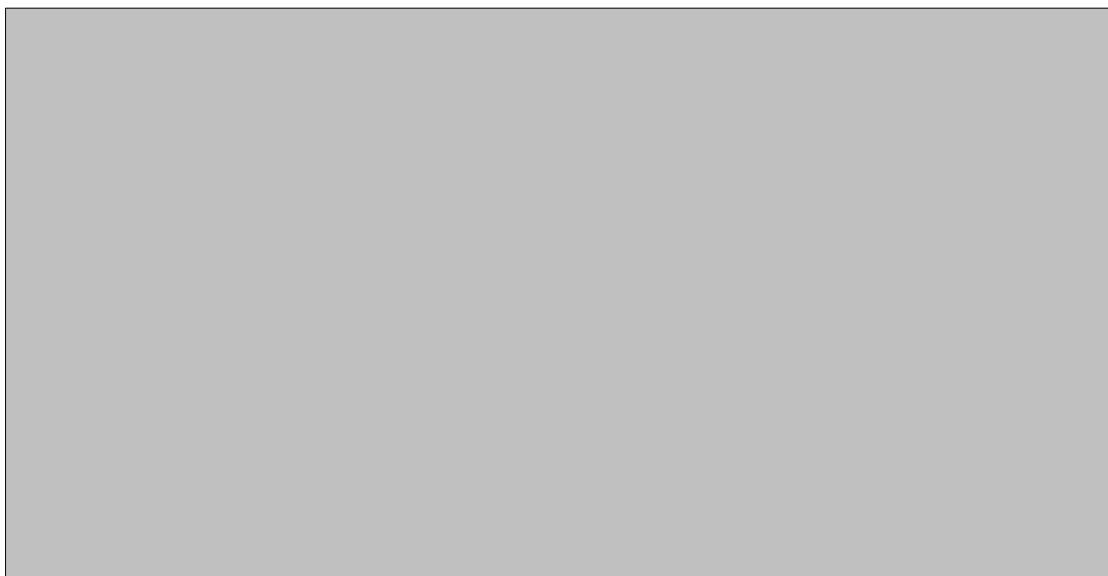
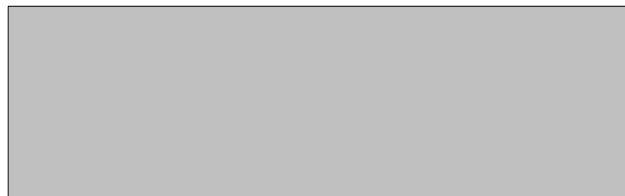
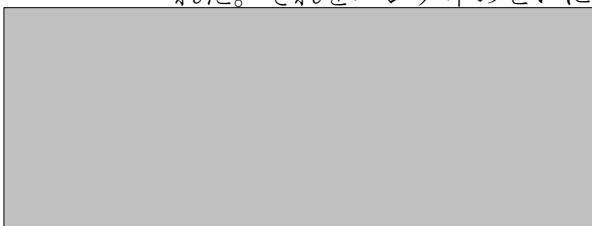
◆第 2 1 回花園会ゴルフ大会 5 月 1 8 日 於：房総 C C 房総ゴルフ場◆

——難コースに四苦八苦！スコアメイクに苦しめられる。

参加 2 2 名。グロスでの二ケタスコアが大変少なく、コースの難しさが感じられた。それをハンディのせいにしたのかどうか定かではないが、次回から 3 回ぐ

らい新ペリアで競技を行い、ハンディを改正しようということになったらしい。

なお、「ベストアップ賞」は、前回から縮めたスコアを競う、花園会独自の賞です。



編集後記

ようやく寺報を出せることになりました。幼

稚園の引越し、旧園舎解体や、新園舎建築のための提出書類、融資のための書類づくりなど、今年の上半期は忙しい日々でした。結局、春の寺報はできず仕舞い。そのため、今号は盛り沢山となり、二十ページにも及ぶものになってしまいました。

あまり盛り沢山だと読む気がしなくなるのではと危惧しておりますが、今号からカラー印刷となり、量が多くとも読みやすいのではと勝手に思っています。

フルカラーの高速印刷機は、特殊なインクジェット方式で、すごい技術だと思えます。日本の技術力の高さを、幼稚園のお手紙を作るたびに感じさせられています。

パソコン・デジカメ・フルカラー印刷機とハイテク機器に向かっていきますが、山育ちの私は、市原で植林したり、草刈したりの方が性分に合っています。例年になく日焼けしているのは、そのせいです。